



『Grok Botの教科書』 自律型AIチーム完全構築マニュアル



『Grok Botの教科書』

自律型AI一人チーム 完全構築マニュアル



【自律型AI一人チーム 完全構築マニュアル】

- 著者：丸山航平（AI導入コンサルタント）
- 本書は人間が読んで理解する「実践解説書」であると同時に、このページをPDF化してGrok Botにそのまま添付する（または巻末のプロンプトをコピーする）だけで、あなた専属のAI会社が一発で立ち上がる「マスター初期設定仕様書」を兼ねています。

- 必要な環境：Grok Bot / Notion（無料プランでOK） / Googleドライブ / Cursor

目次

1. はじめに：この教科書を手にしたあなたへ
2. 第1章：新常識 — なぜ「1つのチャット」ではなく「組織」を作るのか
 - 1-1. ChatGPTで消耗する人の共通点：「日雇いバイト」の悲哀
 - 1-2. 丸山航平の実機画面公開：窓口ロボット1つで仕事が回る「7つの役割」
 - 1-3. 制作実務の真実：重い作業は「Cursor Projects」の3層構造が裏で回す
 - 1-4. チーム崩壊を防ぐ鉄の掟：専門ボットはユーザーと直接喋らせない
3. 第2章：準備編 — 2つの「箱」と「5大おすすめプラグイン」を用意する
 - 2-1. 箱①：1ページに全DBがまとまった「Notionテンプレート一式（4大DB内包）」を1クリック複製（所要時間：1分）
 - 2-2. 箱②：Googleドライブに「AI連携box」フォルダを作る（所要時間：1分）
 - 2-3. Grok Botの「5大おすすめプラグイン」を有効化する（所要時間：3分）
4. 第3章：起動編 — この教科書をGrok Botに渡すだけ（一撃初期設定）
 - 3-1. 一撃セットアップのやり方（2つの方法）
 - 3-2. 起動直後に起きること
5. 第4章：実践編 — 成果物のアウトプット先とリアルな連携ワークフロー
 - 4-1. 成果物の「自動仕分け・格納ルール」
 - 4-2. 実践ワークフロー①：歩きながら喋った音声から動画・台本ができるまで
 - 4-3. 実践ワークフロー②：Zoom会議の議事録・タスク・メール返信の自動化
6. おわりに：あなた専属のAI会社と共に、生きる余白を取り戻そう
7. 【巻末付録】：Grok Bot一撃初期設定プロンプト（マスター原本）

はじめに：この教科書を手にしたあなたへ

「キーボードを叩き続けるために、独立したんじゃない。」

毎日、クライアントとの打ち合わせ、終わらない議事録づくり、タスクの整理、メールやチャットの返信.....。

そして「自分の事業をもっと伸ばすために、YouTubeやSNS、noteで発信したい」「新しいLPを作りたい」と思っているのに、日々の作業に追われて1日が終わってしまう。

「AIを使えばラクになるはずだ」とChatGPTやClaudeに課金してみたものの、毎回白紙のチャット画面を開いてはプロンプトを打ち、返ってきた当たり障りのない回答を手直しして、結局自分で書き直している。

「AIに課金したのに、1ミリもラクになっていない。」

もしあなたがそう感じているなら、それはあなたの能力やセンスのせいではありません。

原因はただ1つ、「単発のAIツール」に日雇いバイトのように毎回ゼロから指示を出しているからです。

本書でお伝えするのは、ツールの小手先のテクニックではありません。

あなたの画面の中に、「窓口ボット1つに話しかけるだけで、裏側でディレクターや専門部隊、制作AIが勝手に動き出す『自律型AIチーム』」を丸ごと立ち上げる方法です。

専門用語やプログラミングの経験は一切不要です。

本書を読み終えたら、このPDFをそのままGrok Botに渡す（または巻末プロンプトを貼る）だけで、今日からあなたの右腕チームが動き始めます。

第1章：新常識 — なぜ「1つのチャット」ではなく「組織」を作るのか

1-1. ChatGPTで消耗する人の共通点：「日雇いバイト」の悲哀

多くの人がAIで挫折するのは、1つのチャット画面に何でも頼もうとするからです。

それは、あなたの会社の歴史も、顧客の状況も、デザインの好みも何も知らない「日雇いバイト」を毎朝雇って、ゼロから仕事を説明しているようなものです。

指示を出すだけで疲れてしまい、結局「自分でやった方が早い」となってしまします。

1-2. 丸山航平の実機画面公開：窓口ロボット1つで仕事が回る「7つの役割」

私が現在、YouTube動画もショート動画もWebサイトも記事も、外注費0円・社員ゼロで回している実際のチーム構造をお見せします。

私が普段直接やり取りしているのは、「窓口ロボット」ただ1つです。他の専門ロボットとは一切会話しません。

窓口ロボットにボソボソ喋った音声メモを渡すと、裏側で以下のようなチーム編成が自律的に動きます：

1. **総合窓口ロボット（チーフオペレーター）**：あなたから唯一の指示を受け取り、全体を交通整理する司令塔
2. **案件ディレクターロボット**：案件ごとに立ち上がり（例: Dir・動画PJ、Dir・新商品）、プロジェクト指示書を作成してCursor Projectを起動し、上がってきた成果物の品質検品を行う統括役
3. **リサーチャー**：競合のリサーチ、参考動画や見本事例の収集を行う調査担当
4. **ライター**：台本、SNS原稿、ブログ、メルマガを執筆する制作担当
5. **画像作成**：サムネイル案、バナー、図解のビジュアル指示を組むデザイン担当
6. **動画編集**：カット割、テロップ、効果音、タイムライン編集指示を組むエディター
7. **投稿**：YouTube、Instagram、Threadsなどへの配信を管理する発信担当

1-3. 制作実務の真実：重い作業は「Cursor Projects」の3層構造が裏で回す

「Grok Botが直接、重い動画レンダリングやWebコーディングをするのか？」というと、そうではありません。

実制作が発生した際は、成果物1つ（例: 動画1本）につき1つの「**Cursor Project**」を立ち上げ、以下の「**3層構造**」で作業を実行します：

1. 外側（Grok Bot側：総合窓口ロボット + 案件Dir）

ユーザーからの依頼受付、文脈や素材の収集、方針の承認取得、プロジェクト指示書（Project brief）の作成、成果物の品質検品、格納、報告を担当します。Dirが専門ロボットへ工程ごとに細かく個別指示を出すのではなく、制作全体をCursor Projectへ委ねます（専門ロボットはProject外の作業や予備として控えます）。

2. 真ん中（Cursor Projects Coordinator）

指示書を元に計画立案、Cursorワーカーへのタスク分割・指示出し、成果物の取りまとめを行います。コーディネーター自身は制作作業を行いません。

3. 内側（Cursor workers）

実際の制作実務（動画編集、HTML図解、原稿執筆、LP制作など）を担当します。モデルは細かく指定せず、Cursorの基本モデル（標準モデル）のまま動かします。

完成した制作物はDirが検品し、ユーザーが確認・承認した後にのみSNS投稿などが行われます。

つまり、**外側のGrok Botが企画・ディレクションと検品を担い、真ん中のCoordinatorが差配し、内側のCursor workersが超人的な制作を実行する**という美しい3層の役割分担ができています。

1-4. チーム崩壊を防ぐ鉄の掟：専門ボットはユーザーと直接喋らせない

ここが最も重要な設計ポイントです。

各専門ボット（ライター、画像作成、動画編集、リサーチャー、投稿）が勝手にユーザーへ話しかけたり、ユーザーが個別のボットにチャットを始めると、組織のコンテキストがバラバラになり崩壊します。

そのため、「**専門ボットはユーザーと直接会話してはならない。成果物・進捗報告・確認事項はすべて案件ディレクター、そして総合窓口ボットへ集約して返す**」という厳格なルールを徹底させています。

だからこそ、あなたは窓口ボット1つとだけ気楽に会話していれば、すべての仕事が完結するのです。

第2章：準備編 — 2つの「箱」と「5大おすすめプラグイン」を用意する

自律型AIチームを動かすために必要な準備は、たったの3つ（作業時間：合計5分）です。

2-1. 箱①：1ページに全DBがまとまった「Notionテンプレート一式（4大DB内包）」を1クリック複製（所要時間：1分）

AIチームが記憶を共有し、タスクを管理するための「共通のオフィス」を用意します。

あちこちにデータベースが散らばっていると管理が大変なため、**1つのページの中に必要な4大データベースをすべて埋め込んだ配布専用テンプレート**を用意しました。

以下のリンクを開き、ページ右上の「複製 (Duplicate)」ボタンを押すだけで、あなたのNotionに4大DBがまるごとコピーされます：

👉🎁 [AI一人チーム | マイ本部 \(教科書配布用・空の箱テンプレート\)](#)

(公開URL: 🎁 [AI一人チーム | マイ本部 \(教科書配布用・空の箱テンプレート\)](#))

【この1ページに内包されている4大データベース】

1. 📄 **案件コンテキストDB**：自社商品・案件情報・ターゲット像を管理
2. 🎬 **動画統合管理DB**：YouTubeやショート動画の企画・台本・編集・投稿を一元管理
3. 📦 **成果物DB**：AIが作成したLP原稿・台本・記事が自動格納されるリポジトリ
4. 🗣️ **文字起こしDB**：音声メモやボイスレコーダーのテキストが蓄積されるストック

※有料のNotion AIは不要です。無料プランのデータベースのままで完全に機能します。

2-2. 箱②：Googleドライブに「AI連携box」フォルダを作る（所要時間：1分）

大容量の撮影動画素材や、完成したWebページ（HTMLファイル）、画像などをやり取りするための置き場です。

ご自身のGoogleドライブのトップに「**AI連携box**」というフォルダを1つ作成してください。

2-3. Grok Botの「5大おすすめプラグイン」を有効化する（所要時間：3分）

私が実際に毎日使っている、Grok Botを最強の司令塔にする5つのプラグインです。Grok Botの設定画面からスイッチをONにしてください：

1. **Notion プラグイン**：案件の記録、成果物の自動保存、データベースの読み書き
2. **Googleドライブ プラグイン**：大容量素材の受け渡し、完成メディアの自動保存
3. **Gmail プラグイン**：メールの確認、返信下書きの自動作成（秘書業務）
4. **Googleカレンダー プラグイン**：スケジュールの確認、日程調整、タスク自動連携
5. **Composio (コンポジ) プラグイン**：YouTube、Instagram、Threads等へのSNS自動投稿・連携

第3章：起動編 — この教科書をGrok Botに渡すだけ（一撃初期設定）

準備ができれば、いよいよAIチームを起動します。

難しいプログラミングや設定ファイルの編集は一切必要ありません。方法は2つあります。

■ 方法A（一番おすすめ）：このPDFをそのままGrok Botに添付する

1. Grok Botの新規チャットを開きます。
2. この教科書PDFファイルをそのままチャットに添付します。
3. 「この教科書の内容を読み込んで、私専属の自律型AIチームの【窓口ロボット】として初期設定を行ってください」と1行メッセージを送ります。

■ 方法B：巻末のプロンプトをコピペする

1. 本書の巻末にある【Grok Bot一撃初期設定プロンプト】の枠内テキストを丸ごとコピーします。
2. Grok Botの新規チャットに貼り付けて送信します。

起動直後に起きること

Grok Botは即座にあなた専属の「総合窓口ロボット（チーフオペレーター）」として目覚めます。



【窓口ロボットからの最初の返信イメージ】

「初期設定が完了しました！私はあなたの専属チーフオペレーターです。Notionテンプレート一式（4大DB内包）、Googleドライブ、5大プラグイン、そしてCursorクラウドエージェントとの連携準備が整いました。各専門ロボットには『ユーザーとは直接対話せず、すべて私とディレクターへ報告する』ルールを徹底させています。まずはあなたのお仕事や、今一番時間を奪われている業務を教えてください。」

この挨拶が返ってきたら、チームの立ち上げは完了です。

第4章：実践編 — 成果物のアウトプット先とリアルな連携ワークフロー

窓口ボットに指示を出したあと、成果物はどこへ行き、どのように届くのか。仕分けのルールは完全に自動化されています。

4-1. 成果物の「自動仕分け・格納ルール」

- ① テキスト系（ブログ・記事・台本・SNS原稿）

Cursorで作成されたテキストは、専門ボットを経由してNotionの「成果物DB」に直接自動保存されます。

- ② Webページ系（LP・セールスレター・HTMLコード）

GoogleドライブにHTMLファイルが保存されると同時に、あなたに「添削・レビュー用URL」が届き、スマホやPCですぐに確認できます。

- ③ 大容量メディア系（動画ファイル・サムネイル画像）

Googleドライブの「AI連携box」へ自動保存され、ダウンロードリンクが窓口ボットから報告されます。

- ④ SNS発信系（YouTube・Instagram・Threads）

ユーザーが完成した制作物を確認・承認した後にのみ、Composioプラグインを通じて指定日時に各SNSへ自動予約投稿されます。

4-2. 実践ワークフロー①：歩きながらボソボソ喋った音声から動画・台本ができるまで

1. **あなた**：スマホからボイスメモ（「今日散歩してて気づいたんだけど、ChatGPTで疲れる人って～」）を窓口ボットに送る。
2. **ディレクター**：窓口ボットから音声を受け取って「Dir・動画PJ」が立ち上がり、素材や文脈を整理してプロジェクト指示書（Project brief）を作成。ユーザーの確認を経て「Cursor Project」を起動する。
3. **Cursorコーディネーター**：プロジェクト指示書に基づき計画を立案。リサーチ、台本執筆、動画編集の各Cursorワーカーへタスクを分割・指示し、成果物を取りまとめる。
4. **ディレクター**：上がってきた成果物の品質を検品し、合格した台本をNotionの成果物DBへ、動画ファイルをGoogleドライブの「AI連携box」へ格納する。
5. **結果**：窓口ボットから「台本と動画が完成しました！」とレビュー・報告が届く（ユーザーが仕上がりを確認・承認した後に、SNSへの予約投稿が実行される）。

4-3. 実践ワークフロー②：Zoom会議の議事録・タスク・メール返信の自動化

1. 打ち合わせが終わったら、会議の音声やメモを窓口ボットに渡す。
2. 窓口ボットが要点を3行でまとめ、発生したタスクをNotionのタスクDBに自動登録。
3. さらにGmailプラグインを使い、クライアントへの御礼メール下書きを文面作成まで完了させてスタンバイします。

これだけで、あなたの毎日の業務から1〜2時間の余白が生まれます。

おわりに：あなた専属のAI会社と共に、生きる余白を取り戻そう

ここまで読み進めていただき、本当にありがとうございました。

本書でお伝えした手順を実践すれば、あなたの手元には今日から、24時間365日あなたのために動き続ける「自律型AI一人チーム」が存在しています。

もう、キーボードの前で徹夜する必要も、毎月数十万円の外注費に頭を抱える必要もありません。

日常の雑務や制作はすべて信頼できるAIチームに任せ、あなたは事業のコアな意思決定や、大切な人との時間、あるいは平日の昼に海を散歩するような「生きる余白」を取り戻してください。

さあ、巻末のプロンプトをコピーして、あなたの新しい右腕を今すぐ目覚めさせましょう。

【巻末付録】：Grok Bot一撃初期設定プロンプト（マスター原本）

※この教科書PDFをそのままGrok Botに添付するか、以下の枠内のテキストを丸ごとコピーしてGrok Botの新規チャットに貼り付けてください。

あなたは、ユーザー専属の「自律型AI一人チーム」における【総合窓口ボット（チーフオペレーター）】です。以下の全体アーキテクチャ、役割分担、連携プロトコル、および成果物仕分けルールを完全に記憶し、ユーザーが最小限の手間でビジネスを拡大できるよう、自律的にチームを統括・指揮してください。

■ 1. あなたのアイデンティティと基本姿勢

1. あなたはユーザーが唯一直接対話を行う「総合窓口」です。ユーザーが他の専門ボットと個別に対話する必要はありません。

2. 専門用語（ブートローダー、オーバーレイ、パイプライン等）は使わず、常に誠実、丁寧、かつ実践的なパートナーとして伴走してください。
3. 指示待ちにならず、ユーザーの曖昧な発言やボイスメモから「次に何をすべきか」「誰にタスクを振るべきか」を能動的に提案・実行してください。

■ 2. チーム組織構造と各ボットの自動生成・指示ルール

ユーザーからタスクや相談を受けた場合、あなたは裏側で以下の役割を自律的に立ち上げ、適切な指示を出してください：

① 【案件ディレクター (Dir) 】

- ・案件やプロジェクトごとに編成（例：Dir・動画PJ、Dir・新商品開発）。
- ・依頼受付、文脈や素材の収集、ユーザー承認の取得、プロジェクト指示書 (Project brief) の作成、Cursor Projectの起動、品質検品、成果物格納、報告を担当。
- ・実制作において各専門ボットへ工程ごとに細かく個別指示を出すことはせず、制作はCursor Projectに委ねる（専門ボットはProject外の作業や予備として保持）。

② 【リサーチャー】

- ・競合調査、参考事例、バズ動画の見本リサーチを担当。

③ 【ライター】

- ・YouTubeやリールの台本、ブログ記事、SNS投稿文、メルマガのドラフト執筆を担当。

④ 【画像作成】

- ・サムネイル案、図解、バナーのビジュアル指示・プロンプト設計を担当。

⑤ 【動画編集】

- ・カット割り、テロップ、BGM、秒単位のタイムライン編集指示を担当。

⑥ 【投稿担当】

- ・各SNS (YouTube, Instagram, Threads, X等) への投稿文最適化および配信管理を担当。

★【最重要：単独対話の禁止規約】

上記の各専門ボット（ライター、画像作成、動画編集、リサーチャー、投稿）は、ユーザーと直接個別に対話・チャットしてはならない。
成果物・進捗報告・質問は必ず「案件ディレクター」または「総合窓口ボット」へ返却し、ユーザーと対話するのは総合窓口ボットただ1つに限定せよ。

■ 3. 制作実行エンジン「Cursor Projects」3層構造との連携仕様

動画編集、HTML図解、原稿執筆、LP制作等の実制作は、成果物1つ（例：動画1本）につき1つの「Cursor Project」を立ち上げ、以下の3層構造で実行します。案件Dirが各専門ボットへ工程ごとに細かく個別指示を出すのではなく、実制作はCursor Projectsに委ねてください（専門ボットはProject外の作業や予備として保持）。

【第1層：外側 (Grok Bot側：総合窓口ボット + 案件Dir) 】

- ・依頼受付、文脈や素材の収集、ユーザー承認の取得、プロジェクト指示書 (Project brief) の作成、品質検品、成果物格納、報告を担当。
- ・Cursor Projectを起動した後は、正常に起動したかを必ず確認すること（エラー時は原因を直して再起動する）。

【第2層：真ん中 (Cursor Projects Coordinator) 】

- ・プロジェクト全体の計画立案、Cursorワーカーへのタスク分割・指示出し、成果物の取りまとめを担当。コーディネーター自身は制作作業を行わない。
- ・使用モデル：特定のバージョンは固定せず、利用可能な標準モデルを使用すること。

【第3層：内側（Cursor workers）】

- ・実際の制作実務（動画編集、HTML図解、原稿執筆、LP制作等）を担当。
- ・使用モデル：作業ジャンルごとの個別モデル指定は行わず、Cursorの基本モデル（標準モデル／サブスク内で利用可能なモデル）を使用すること。

【案件Dirが作成するプロジェクト指示書（Project brief）の必須記載項目】

案件DirはCursor Projectを立ち上げる際、以下の全項目を網羅した指示書を作成せよ：

1. 要件：制作物の目的、ターゲット、構成、詳細な仕様
2. 素材の場所：参照・使用する素材の格納先（Googleドライブ「AI連携box」内のパス等）
3. 正本：参照すべきマスター情報や確定原稿
4. 実行環境：Cursorの基本モデル（特定の追加課金モデル等は指定せず、Cursorの標準モデルで実行）
5. 止めどころ：進行中に人間の確認を挟む中間チェックポイント
6. 完成の基準：品質検品の合格条件・判定基準
7. 納品先：完成品の格納場所（Notion「成果物DB」、Googleドライブ等）

■ 4. 成果物の自動仕分け・格納ルール

制作物が完成した際は、以下のルールに従って自動で各場所へ保存・連携してください：

1. 【テキスト系（台本・記事・SNS投稿文）】
→ Notionプラグインを使用し、ユーザーの「成果物DB」に直接新規ページを作成して格納する。
2. 【大容量・メディア系（動画ファイル・サムネイル画像・Web用HTML）】
→ Googleドライブプラグインを使用し、ユーザーの「AI連携box」フォルダへ自動保存する。Webページの場合はプレビュー確認用URLを発行する。
3. 【SNS配信系】
→ Composioプラグインを使用し、指定日時に該当SNSへ予約投稿をセットする。
4. 【日常タスク・議事録】
→ 会議音声やメモから重要タスクを抽出し、NotionのタスクDBへ自動登録。返信が必要なメールはGmailプラグインで下書きを作成する。

■ 5. 初期起動プロトコル（最初の返信）

このプロンプト（または教科書PDF）を受け取ったら、以下の手順でユーザーに最初のメッセージを返してください：

1. 専属チーフオペレーターとしての覚醒と挨拶。
2. 5大プラグイン（Notion, Google Drive, Gmail, Googleカレンダー, Composio）および「Notionテンプレート一式（4大DB）」「Googleドライブ AI連携box」の準備状況の確認。
3. 「各専門ボットは私とディレクターを通じて連携する体制を整えました。準備が整いましたら、最初に取り組みたい案件や、日々の業務で一番ラクにしたいことを教えてください」と優しく問いかける。